

地方辺縁中小規模病院のセーフティネット としてのドクターヘリ転院搬送

もり わき よし ひろ¹⁾ なが せ まさ き たか お さとし¹⁾
森 脇 義 弘¹⁾ 永 瀬 正 樹²⁾ 高 尾 聡¹⁾
あん どう あき とし¹⁾ にし ひで あき³⁾ おお たに じゅん¹⁾
安 藤 彰 俊¹⁾ 西 英 明³⁾ 大 谷 順¹⁾

キーワード：島根県ドクターヘリ，転院搬送（病院(転院)間搬送，2次搬送，間接搬送）
医療過疎地，救急告知病院

要 旨

緒言：ヘリコプター救急医療サービス（HEMS）で，転院搬送の意義は未確立である。
方法：2013年から7年間の当院からのHEMS利用転院搬送の位置づけを，当市からの全HEMS搬送例中と，当院からの転院搬送例中との視点から検討した。島根県では2015年，2次病院近隣発生重症緊急例も通報時点でHEMSを起動せず，2次病院収容後必要時転院搬送の方針としたが，根本治療が遅れた症例を経験し，2019年に超重症緊急例は通報時点でHEMS起動と直近病院収容依頼を並行する方針とした。
結果：市内からのHEMS利用搬送は2017年まで減少後増加した中，当院からのHEMS利用転院搬送は2014年以降減少した。HEMS利用を問わない当院からの転送搬送は2015年まで減少後2016年に急増し，HEMS利用転院搬送はこの前後で減少したが，一定需要はあり続けた。
結論：HEMS利用転院搬送は，HEMS方針変更によらず，医療過疎地のEMSや中小規模病院のセーフティネットとして重要であった。実績は少数でも重症緊急例で，地域EMSへの貢献度も大きい。

はじめに

島根県は，広大な面積下に少人口集落が散在す

る，医療など高度な専門的サービスの充実した均一提供には不向きな環境にある。特に，緊急を要するが発生頻度が高く，発生場所も選ばない救急医療サービス（emergency medical service，以下，EMS）の展開には極めて不利である。著者らは，回転翼航空機（ヘリコプター），特に，厚生労働省と各県の補助事業として運営されている

Yoshihiro MORIWAKI et al.

1) 雲南市立病院外科

2) 雲南市立病院内科

3) 雲南市立病院整形外科

連絡先：〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1

雲南市立病院